



* 尾田蒔中学校のホームページに、学校の最新情報を掲載しています。是非ご覧ください。

卒業式特集

式辞

桜のつばみがふくらみ、開花を迎えようとしている春のこの良き日に、秩父市立尾田蒔中学校第74回卒業証書授与式が保護者の皆様ご参列の中、このように挙行できますことに心から感謝申し上げます。

今、ここに卒業証書を授与されました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今手にしている卒業証書は義務教育9年間の修了を意味する大切なものです。そして、皆さんの今日の晴れの門出を心から祝う思いが込められています。今までの道のりを振り返りながら、家族の皆さんと一緒に、この尾田蒔中学校を卒業したことをかみしめてみてください。家族はかけがえのない宝物です。皆さんがここまで成長するのにどれだけ心配し、どれだけ力添えをしてもらったことか。感謝の気持ちを忘れずに、今まで支えていただいた以上の恩返しを家族の人達にしてほしいと思います。

さて、この尾田蒔中学校での3年は皆さんにとってどのようなものだったでしょうか。数々の行事や部活動での思い出、様々な授業、友達や先生方との日常生活、その中での出来事や学んだこと、感動したことなど、思い出せば、数え切れないほどあるでしょう。中には思い出したくないような辛い思い出もあるかも知れません。でも、その全てが今のあなたを心豊かに、たくましく成長させてくれたのだと思います。

特にこの1年は、日本中、世界中で新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにいろいろなところで行動が制限され、自粛を強いられました。学校では臨時休校や分散登校、部活動の長期にわたる中止もありました。3年生最後の大会である学校総合体育大会も中止となってしまいました。これまでの練習の成果を3年生は大会で発揮することはできませんでした。引退の時期も様々でした。それでも皆さんは先輩から引き継いできた各部の伝統を後輩に残してくれました。新人戦も中止になりましたが、それに代わって行われた秩父地区中学校スポーツ交流大会で、1, 2年生は最後まで全力を尽くしました。人数は少なくても、最後まであきらめず、3年生のことを思い出し、礼を尽くして闘う尾田蒔中学校の意地を見せてくれました。

それは、体育祭や文化祭でも同じ。応援合戦は3年生のみの演技となりましたが、1, 2年生はしっかりその姿、生き生きと進んで行動している姿を見ていました。時間を縮小し、競技も厳選する中、全ての競技に全力で臨み、決してあきらめず、最後まで汗をかくことを惜みず、感動的な体育祭となりました。短期間の団練習でしたが、3年生のリーダーシップの下、尾田蒔中学校の伝統が1, 2年生に引き継がれていることを実感しました。そして、体育祭スローガンそのまま「Never give up! 汗と涙 流してこそその体育祭」にすることができました。



文化祭では、その1, 2年生が3年生の歌声に迫る美しい声を響かせてくれました。しかし、3年生が歌った合唱曲「足跡」はさらに感動的でした。それは、その歌詞の言葉が、卒業していく3年生の気持ちそのものだったからだと思います。

今日も歩き続ける 今しか見えない景色の中で
口ずさむその音色 力に変えていく
生涯忘れられない日々 抱きしめ 生きていく
辿った道に続く足跡 全て美しく

文化祭の合唱コンクールでは、『絆』という課題曲もありました。3年生からの呼びかけに1, 2年生が応えて、尾田蒔中学校生徒全員で歌うことができました。『絆』を確認しながら、生徒一人一人の思いを繋げて、感動的に歌い上げることができました。合唱の素晴らしさを肌で感じる事ができた文化祭でした。尾田蒔中学校の生徒しか創ることができないハーモニーに浸ることができて、私達全員、とても幸せな気持ちになれたのを今でも覚えています。

心残りなのは修学旅行に一緒に行けなかったことです。京都、奈良の地で、歴史的な寺社仏閣を目の前にして、日本の文化と伝統の深さを肌で感じる事ができなかったのが悔しい。皆さんと同じ宿で寝食をともにして、もっともっと色々な話がしたかった。でも、無理をして高校入試や卒業式に影響してはならないと苦渋の決断をするしかありませんでした。そんな中でも3年生の先生方はあきらめずにいました。リモート修学旅行という形ではありましたが、他の学校ができなかったことを企画してくれました。また、今後の皆さんの生きる道標となるようにSDGsを学ぶためのプログラムも用意してくれました。そこには、世界、地球規模の視野をもち、考えて行動する人になってほしいという願いが込められています。また、先日、卒業生から手作りの卒業文集と感謝の手紙を綴った冊子をいただきました。それを読みながら思ったことは、卒業生の心の成長です。相手の気持ちを想像し、思いやりをもつこと、つまり「慮る」ことができるようになりました。何事もあきらめずに、主体的にやろうとする意欲をもって卒業していく決意を君たちの文章から感じる事ができました。修学旅行で語り合うことはできませんでしたが、心の絆は深まっていたと確信しています。

さあ、いよいよお別れです。私が伝えてきた話の中から言葉を選んでお別れの気持ちをここに述べます。

「寛恕」とは他人の過ちを許すことではない。自分の心を諫め、行動を見直すこと。そのためには強く、丈夫な身体と心、そして周りの人を笑顔にする優しさと行動力が必要だ。これから自分を磨き鍛える中で孤独を感じる事があれば論語のこの言葉を思い出してほしい。「徳孤ならず必ず隣あり。」
君たちが力強く羽ばたき、麒麟のごとく「飛翔」し、これからの社会を、誰一人も残さずに幸せにする平和な社会にしていってくださることを期待している。

惜別の思いを胸に、これを卒業生への餞の言葉とします。

結びに、保護者の皆様をはじめ地域の多くの皆様に御礼を申し上げますとともに本校の教育活動に対しこれまで温かいご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。29名の卒業生の前途に幸多く、それぞれのもつ美しい色の花が咲き、未来の社会が明るく輝くことを祈念して、式辞といたします。

令和3年3月13日

秩父市立尾田蒔中学校長 根岸力

送 辞



厳しい冬の寒さの中にも春の訪れを感じることでできる季節となりました。本日、晴れて尾田蒔中学校の卒業式を迎えられた3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今先輩方との思い出を振り返ってみますと、先輩方はいつも私たちの背中を優しく押してくださり、数え切れないほどたくさんの場面で私たちのお手本となっていたことに改めて気づきます。そのたくましく、頼もしい姿は、私たち在校生の心に深く刻み込まれています。

私が先輩方と特に深く関わるようになったのは、生徒会活動に参加したことがきっかけでした。前生徒会長をはじめ、先輩方全員が、どんなときでも責任感を持ち、前向きに生徒会の仕事をこなしていました。また、学校をよい方向へと導いている姿は、いつも私の目標でした。委員会活動や部活動、体育祭などの行事においても、先輩方がリーダーシップを発揮してくださいました。おかげで、新型コロナウイルスの影響で、制限された行事や部活動も充実し、思い出深く、心に残っています。

特に、文化祭では、私たちも、先輩方の歌声をこえようと練習に励みましたが、先輩方の歌声には到底及ぶことはできませんでした。先輩方の団結力を感じる、心に響く素晴らしい歌声は今でも心に残っています。そして、一緒に歌った「絆」はずっと忘れません。

様々な面で素晴らしい活躍をしてくださった先輩方の姿は、いつもまぶしく、輝いていました。いつか自分も先輩方のようにになりたい、そう強く思いながら、今日まで過ごしてきました。やはり先輩方が築いてきたものは、あまりにも大きく、超えることはなかなかできそうにありませんが、少しでも近づくことができるよう生活していきたいと思います。

先輩方は、これから自分で決めた道へと進まれます。新型コロナウイルスの影響もあり、先の見えない不安定な未来で、くじけそうになったり、いやになったりすることもあるかもしれませんが、そんな中でも、尾田蒔中学校での3年間で学んだ、諦めずに努力し続けることの大切さや仲間との絆を思い出し、困難も乗り越え、未来を切り拓いてくださることと思います。

いよいよ先輩方とのお別れの時が近づきました。1、2年生は卒業式には、参列できませんでしたが、先輩方が作り上げてきた伝統を守り、笑顔あふれる最高の尾田蒔中学校を築き上げていきます。どうか、見守っててください。

結びに、私たちは先輩方の後輩として、この尾田蒔中学校で共に学べたこと、生活できたこと心から誇りに思います。過ごした日々は一生の宝物です。

卒業生の皆様のご健康と今後のご活躍をお祈りして、送辞とさせていただきます。

令和3年3月13日

在校生代表 大澤 蘭



【卒業証書授与式を進行する関根稔教務主任】

【開式の言葉を述べる井ノ瀬教頭】



【卒業式会場まで続く廊下に羽ばたく在校生手作りの掲示】



【市教委からのお祝いの言葉の代読】

【卒業生からの卒業記念品（電子ホチキス）】



【廊下で卒業生を拍手で見送る在校生】

【昇降口へ卒業生を見送る在校生と教職員】

答 辞



柔らかな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。本日、私たち29名は無事、卒業を迎えることができました。

このような状況の中にもかかわらず、卒業式を挙行していただき誠にありがとうございます。また、先ほどは校長先生をはじめ、ご来賓の皆様方、在校生の方からの温かいご祝辞と励ましの言葉を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

2018年4月8日、桜が咲き誇る晴天の中、真新しい制服に身を包み、これから始まる中学校生活に期待と不安を抱きながら校門をくぐりました。たくましく、大人びた先輩たち。優しい笑顔の中にも厳しさを感じる先生の姿に驚いたことを、今でも鮮明に覚えています。この3年間は、長いようで短く、あっという間でした。しかし、そんな中には何ものにも変えがたい思い出が沢山詰まっています。

沢山の汗と涙を流しながら、仲間と共に励んだ部活動。多くの時間を費やした部活動での経験は、これからの人生でも必要となる多くのことを学ぶことができました。時には同士でありライバルでもある仲間との衝突もありましたが、共通の目標に向かって練習を重ねるうち、心も一つになっていくのを感じました。その過程で、「何かに夢中になって取り組むことの喜び」「仲間と切磋琢磨することの充実感」を、身をもって学ぶことができました。

学年の垣根を超え、団結して競った体育祭。1、2年生の時は、先輩についていこうと必死でした。3年生になると、自分たちがリードする立場になり、責任感からの不安を感じました。また、今年は全学年での応援合戦ではなく、3年生だけの形で体育祭を盛り上げるためのパフォーマンスをしました。前例のない、新しいことへの挑戦に対しての不安もありました。上手くいかず壁にぶつかることもありましたが、休み時間や放課後の時間を使い、何度も練習を重ねました。当日は、1、2年生も少しでしたが一緒に踊れたことがとても嬉しかったです。そして、「優勝」という目標に向かって、全員で一つになり全力で取り組むことができました。

気持ちを歌声に乗せた文化祭。1、2年生の時に先輩方の歌を聴き、圧倒され、自分たちが3年生になってこんなふうに歌えるのかと不安でした。朝練習から放課後練習までみっちり、歌い方を話し合い、工夫しながら練習に励みました。価値観の違いから、上手くいかないこともありましたが、今年度の合唱は、マウスシールドを着用しながら、練習方法も工夫しなければなりません。そもそも、文化祭を行うことができるのか…と、気持ちが落ち着かない日が続きました。しかし、無事に本番を迎えることができました。当日は、私たちらしい合唱を目標に、練習の成果を発揮することができました。3年生にふさわしい歌声を、体育館中に響かせることができました。そして、最後に全校で歌った課題曲の「絆」は言葉にできないほど感動したかけがえのない思い出になりました。

今日、この場の在校生は、代表の大澤さんだけですが、在校生から見て私たちは、先輩として尾田蒔中学校を引っ張ることはできていたのでしょうか。私たちは、やるべきことやらなければならないこと、そして、先輩としての責務を全うしてきたつもりです。その思いが伝わっていたら、幸いです。

この一年、新型コロナウイルスの影響で、先の見えない生活を送ってきました。休校、行事、大会の縮小、中止…。今まで経験したことのない生活が新しい日常となり、その日常に追いつくことで精一杯でした。友達と会えないことで気づいた、友達の存在の大切さ。心身共に支えてくれた家族の偉大さを、より強く感じました。辛いこと、悔しいことが多かった日々の中で、今までと変わらないことへの喜びは、何倍にも膨らみました。縮小して行った行事では、その行事を行う理由について全員で考え、話し合うことで、より一層クラスがまとまることができました。また、その行事を実施するにあたり、先生方には多くのお力添えをいただきました。私たちの無茶な願いを実現していただくなど、迷惑をかけてしまいましたが、三年間、常に静かな私たちを見守ってくださり、本当にありがとうございました。

これまで、私たちは教科書を使って、命の重みについて何度も学んできました。しかし、今回の新型コロナウイルスで、教科書にも載っていない、命を脅かす存在への恐ろしさと、何より、命の大切さを知ることができました。私たちは、命の大切さを知った“つもり”でいたのです。また、その最前線に立ち、命を守るために全力で活動されている人々の姿を目にし、感謝すると同時に、本当の意味で「命を守るためにはどうすべきか」を真剣に考えました。

命は、私たちが思っている以上に繊細で儚いものです。儚いから、大切にしなければなりません。これからも、周りも自分も大切にしていきたいです。そして、これからの人生も、思い描いた夢を実現できるよう、挑戦を続け進んでいきたいです。

お父さん、お母さん、家族のみんな。いつでも近くにいてくれて、応援してくれてありがとう。家族のみんなの支えがあったからこそ、たくさんのことに挑戦することができたし、多くの困難を乗り越えることができたと思います。そんなありがたさをわかっていながらも、たくさんの心配や迷惑をかけてごめんなさい。そして、大好きです。

私たちは今日、義務教育の過程を終了し、次なる夢や目標のスタートを切ろうとしています。まだ、たくさんの迷惑をかけると思いますが、温かく見守ってください。

校長先生をはじめ、先生方、本日はご臨席いただけませんでした。来賓の皆様、地域の方々、今まで温かく見守っていただき、ありがとうございました。皆様の温もりを感じながら、過ごすことができた私たちは幸せです。私たちが大きく成長できたのも、皆様に支えていただいたおかげです。心より感謝いたします。

最後に、本日ご臨席を賜りました皆様のご健康と、尾田蒔中学校のますますのご発展、そして新型コロナウイルスの一日も早い終息をお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和3年3月13日

令和2年度 卒業生代表 田代 琴美



【卒業記念品目録を手渡す卒業生代表】



【「旅立ちの日に」を心をこめて歌う卒業生】